

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692800036		
法人名	社会福祉法人 城陽福祉会		
事業所名	グループホーム ひだまり浜道裏		
所在地	京都府城陽市平川浜道裏29-5		
自己評価作成日	平成24年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広い敷地にはホームを1周出来る遊歩道があり、夏は朝早くから散歩を楽しませている。ボランティアの協力で畑には季節の野菜をつくり、採れたての野菜が食卓彩っている。ブレンダーで咲かせた花や庭に咲く花を食堂や洗面台に生けたり、奥さんの仏前に供えられる支援に務めている。食事作り・洗濯・掃除・買い物・散歩など日常生活動作の中で身体機能の低下予防と維持に努めている。開所から4年が経過し、認知症状の進行により、その方の思いを知り、よりきめ細かいケアに取り組んできた。若い職員が入居者に一生懸命向き合おうとする姿勢に指導者はもとより家族様からも大変喜ばれ、人材育成の大きな機会を頂いた。「とにかくやってみよう」を合い言葉に職員一人一人が発言し実践に取り組んだ。地元の梅林や秋祭りの神輿見物、地域の清掃活動やコミュニティーセンターでのゴスペルソング

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分達が認知症になったらどんな生活がしたいかを考えることで、認知症の方の思いを職員間で出し合い自分らしく生きたいと言う共通認識が持てたが理念にまで届かずにいるのが現状である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する中学校の運動会を見学したり、小学校区の清掃活動のボランティアに参加されている。地域の方と時節の挨拶を交わされたり、町内に畑で採れたジャガイモをお裾分けした。そのお礼にと、親戚から届いた八朔を届けて下さった。生協の共同購入で馴染みの関係ができ、住民から介護保険制度についての相談を受けたり、また法話の会の声かけをし、参加されている。今年度は町内の会計をホームが担当し、一歩前に進めた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部からのボランティアや推進会議のメンバーの方には認知症の方への接し方について説明をさせて頂いているが地域への発信はまだ出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故や困難事例を報告し、対応方法や改善策についてメンバーから提案を頂き、ケアの実践に繋げているが、出席する職員が限られており、職員間で共有の認識は低い。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市や地域包括の担当者と相談したり、対応してもらったり協力関係は出来ている。地域包括の研修など市町村の事業に参加することで協力関係に務めている。		

京都府 グループホーム ひだまり浜道裏 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は一切行っていないが、入居前から徘徊行為で家族対応しきれず入居に至ったケースが多く安全を重視し、門扉を施錠している。 ・拘束をしないケアをしたいが、門扉が閉まっていることはもちろん、人数が全員の思い通りの外出も出来ていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・言語による虐待も立派な虐待行為であるため、言葉掛け、態度など自己チェック、他者チェックをし意識を高めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・利用されている方も居られる為、実際にどういう制度なのか法人の全体会議や新任研修で学ぶ機会にある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・不安や疑問点に対してどのような対応策、解決策があるのか提案、説明を行い、理解して頂ける様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族様の来所時、家族様からの意見、要望が聞けるように、口頭・アンケートで情報収集し、運営推進会議や市の事業所連絡会議で意見として開示し、また反対に参考になる意見を貰うことがある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・現場で働いている職員から、勤務体制などそのつど管理者と情報を共有している。		

京都府 グループホーム ひだまり浜道裏 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者と面談する機会は無いが、日々の勤務の中でそのつど声掛けをして頂いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修が開かれている時は声を掛けていただき、参加できるものは参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・機会が無いように思う		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・何に一番困っておられるか、訴えを読み取ろうと努めている ・日々の生活から利用者様の態度や表情を観察し耳を傾けながらよりよく過ごして頂けるよう努めている。 ・話せる人間であると認めもらえるように努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族様が困っていることや願いを話せる雰囲気を作ること。 ・利用者様が快く生活できる為に家族様にも理解していただく事に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・話を十分行なう事で、必要としている支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・常に敬意を払い人生の先輩である事を頭に置き何事も一緒にさせて頂く ・信頼していただけるよう努めている		

京都府 グループホーム ひだまり浜道裏 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族との面会、外出などの機会を出来るだけ多く作り、絆を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・機会は少ないが、馴染みの場所などに出掛ける		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・同じ辛さ、不安感を抱えている者同士でケアし合える、支えあえるような関係性でいられるようにしている ・リビングで楽しめる様、色々な活動を取り入れている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・他施設へ移動された場合も訪問するなどして関係性を大切にしている ・相談に応じたり、面会に出掛ける		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・何気ない会話から、本人様への思い、希望を聞きだしケア記録に示す。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前にシートに記入していただく事で、情報がある程度把握できている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・個別記録に、その日の心身の状態、過ごし方を記録し、確実に申し送りをしている ・個別の記録をもとに、職員全員が情報を共有できるようにする		

京都府 グループホーム ひだまり浜道裏 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・プランを短期間で見直しをし、モニタリングをしケアカンファレンスで新しいプランの作成をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・1人ずつケアの実践、行動など細かく記録し次の勤務者が記録を読めば状況が状況がわかるように情報をしっかり残している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・プランを細かく見直すことで、その時々ニーズに対応できるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアさんにより、外出レクが出来たり畑、音楽、習字、手芸など楽しませていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族様・本人様が納得された主治医の方に訪問診療をしていただいている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護職はいない		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院までの経緯を細かく情報提供している。早期退院に向けて病院関係者と今後の方向性について相談を行っている		

京都府 グループホーム ひだまり浜道裏 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ターミナルケアは実施していない		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変に対応して、冷静に対応できるまでの訓練を定期的に行う必要がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災による避難訓練は実施しているが、地震・水害などに関しては不十分である		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・接遇に関する会議を行い、1人1人が意識して利用者様と接する事が出来るように意識付けをしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自分の思いが表現できるような人間関係が築けるように努めている ・ご自身で選んでいただけるような言葉掛けに努めている ・敬意を示し接する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その方のその日の状態を見極め、より良く生活が送れるように無理にならないように支援している。 ・出来る限り対応しているが、外出を好む方への対応ができていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・起床介助時、一緒に洋服を選ぶ事もある。 ・化粧をしっかりとされる方もいる ・定期的に理容室へ行っており、その人らしく生活されるよう支援している		

京都府 グループホーム ひだまり浜道裏 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・1人1人の力を発揮できるように少しずつ手を加え、食事準備をしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・献立に添って、アレンジしながらバランスよく摂取できるようにしている。朝食に関してはパン、ご飯好きな方を選んでいただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・自分で行える方にもそうでない方にも必ず声掛けを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・1人1人のパターンを把握し、トイレ誘導を行ないパットの使用、汚染頻度を減らすようにしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・腹部を動かす運動、腹部マッサージ、腹圧を掛けるなど排便を促している。また食事や水分量にも気を配っている ・記録を把握し、毎日の体操や散歩、食事などで便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・職員は指定した日に入浴していただく形になっているが夏には就寝前にシャワー浴をされるなどの対応を行なっている。今後は人員配置の検討で夜間の入浴が可能になればと思う。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・状況に応じて休まれるように声を掛けるなどしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬情報を常に目を通して、何の薬を飲まれているのか、副作用はないかなど確認を行っている		

京都府 グループホーム ひだまり浜道裏 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・買い物など昔からされていた事を理解し、楽しく以前生活されていたように努める		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・なるべく外出の機会を増やすようにしているが、行けないこともある。 思い出の場所などに家族様の力をお借りして外出できた ・遠い所へは体力的にも大変なので近くでも楽しめ、有意義に過ごせるよう一年を通じ実行している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で管理されている方もいるが、基本的には管理しており外出時にお金を支払うという機会を設けている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・個人で携帯を持っておられる方もいた。 ・望まれる方時は協力したい。 ・何度かの家族様へ手紙を送り、近状報告はしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・常に清潔を保つようにしている。また季節の花など飾って季節感を取り入れている。 感染症の観点から室温・湿度にも注意している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに何人かで座り談話ができるようにしている		

京都府 グループホーム ひだまり浜道裏 2階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持って来ていただき、前の部屋と雰囲気が似るようにお願いをしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・表札を各部屋につけている。 ・トイレまでの道筋をテープなどで示す		